

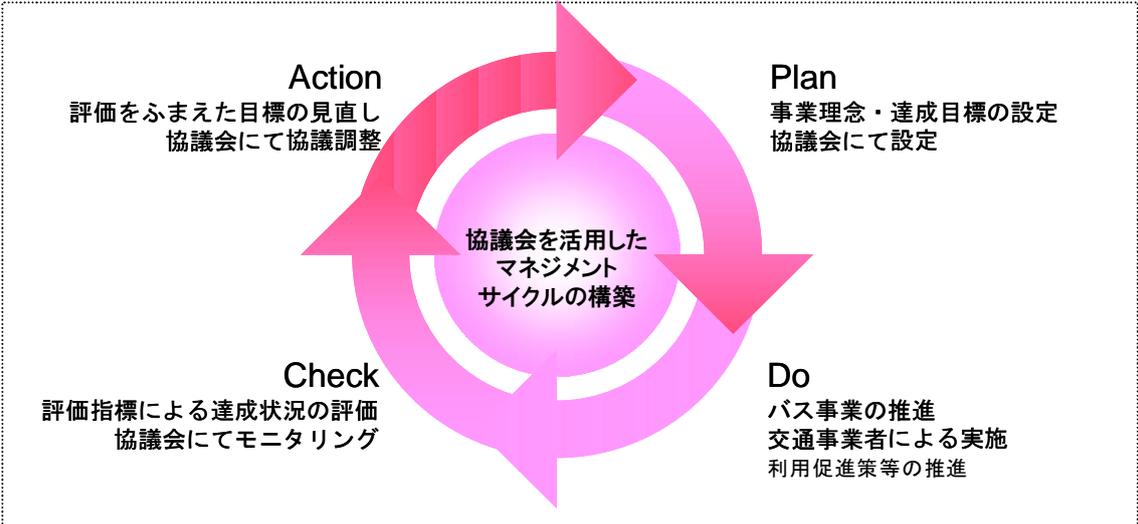
# 第7章 事業推進にあたって

## 1. PDCAサイクルの導入

コミュニティバス等の事業性を逐次評価し、事業継続の判断や利用者ニーズに応じた改善等を行うため、下図に示すように武豊町地域公共交通会議（法定協議会）において、コミュニティバスのPDCAを実施する。

事業の達成目標を地域公共交通会議（法定協議会）の共通理解のもとで設定（Plan）し、事業目的を踏まえた上で交通事業者によるバス運行及び利用促進策を展開（Do）する。そして、事前に設定した評価指標を用いてバス事業を評価（Check）すると共に、評価結果をふまえた運行内容等の見直し（Action）を行う。

図 7-1 PDCA サイクルのイメージ



PDCA の評価（Check）や事業改善（Action）の検討に当たっては、地域公共交通会議の下部組織である部会を活用する。

なお、計画期間を平成 27 年度から平成 33 年度としていることから、中間年度の平成 30 年度に中間評価を、最終年度の平成 33 年度に事業評価を行う。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
武豊町 地域公共交通網 形成計画	事業 着手			中間 評価			事業 評価

## 2. 第1次計画時の事業評価について

第1次計画では、下記の評価指標を設定していた。

### ○事業背景・目的

当該コミュニティバスは、新たな事業であることを鑑み、地域公共交通空白地域の解消が達成されたかという目的に加え、バス事業の普及定着と住民ニーズへの的確な対応を目的としていた。

### ○評価指標

指標1：市街化区域面積に対する基幹・サブルートของバス停カバー面積割合

- ・市街化区域内において、基幹・サブルートของバス停の300m圏域がどれだけの面積をカバーしているか、面積カバー率を評価指標としていた。
- ・事業目標値：80%

指標2：乗降者数・収支率の推移にみる必要性評価

- ・事業の必要性、事業の定着を確認するため、期間中における乗降者数と収支率（事業経費に対する運賃収入割合）の推移を確認し、利用者の増加・収支率の向上を目指していた。
- ・事業目標値：対前年比プラス

指標3：利用者満足度の向上

- ・利用者満足度の調査と、それに伴う事業改善により利用者満足度の向上を目指していた。
- ・事業目標値：定期的に行うアンケート調査の満足度値の向上

※なお、事業の継続必要性については、これら評価指標と定期的に行う住民及び利用者アンケート調査による必要性評価を総合的に判断し評価していた。

### 3. 第2次計画時の事業評価について

第1次計画の評価指標は、新規事業の武豊町コミュニティバスの事業化にポイントをおいた評価であった。

第2次評価は、武豊町コミュニティバス事業については、事業継続に関する評価が重要であり、その他事業についても、事業効果を定量的に評価するための指標設定が重要である。

こうした点をふまえ、第2次計画の評価指標を下記のように設定し、目標管理を行う。

	事業名	評価指標と目標値	評価の方法・ポイント
運 行 事 業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○武豊町コミュニティバス事業</li> <li>○事前予約制バス（タクシー）事業</li> </ul>	<p>&lt;指標1&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○路線別利用者数の推移</li> </ul> <p>&lt;目標値&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○対前年比プラス</li> </ul> <p>&lt;指標2&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○財政支援額の推移</li> </ul> <p>&lt;目標値&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現状の支援額以下</li> </ul> <p>※評価時期＝毎年実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用の低い路線の事業改善を行うため、路線別の利用状況を確認する。</li> <li>○住民の理解を得て事業継続を行う必要があるため、全体事業費に占める財政支援額の推移を確認する。</li> <li>○この2つの評価指標をもって、適切な事業が実施できているか目標管理を行う。</li> </ul>
関 連 事 業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意識転換を促すMMアプローチ</li> <li>○地域協働推進事業（利用促進事業）</li> <li>○その他交通施策の向上検討（障害者タクシー料金助成・バス運賃助成・老人福祉センター巡回バス）</li> <li>○まちづくり事業（駐輪場・駅前広場）</li> </ul>	<p>&lt;指標3&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○住民の公共交通の利用割合（住民向けアンケート調査より実施）</li> </ul> <p>&lt;目標値&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画満了時の利用割合：約20%（現状値：約10%）</li> </ul> <p>※評価時期＝中間評価・計画満了時にアンケート調査を実施し評価。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民の意識転換、事業参画の目標設定は、アウトカム指標として公共交通の利用割合を想定する。</li> <li>○運行事業の評価として、住民意向（税投入とサービス水準のあり方等）も確認する</li> <li>○毎年の事業進捗は、武豊町地域公共交通会議にて、事業実施状況の報告により確認し、その事業成果を公共交通の利用割合で評価することで、適切なサービス提供ができているかを目標管理する。</li> </ul>

評価時期については、運行事業に関する「利用者数・財政支援額」の評価は毎年度実施することとし、関連事業にかかる「住民の公共交通の利用割合」による評価は、中間年度（平成30年度）と最終年度（平成33年度）に実施する。

なお、住民アンケート調査では、公共交通の利用割合以外に、「現状の財政支援額の妥当性」や「公共交通のサービス水準に対する満足度」といった住民意向も併せて確認し、事業評価の材料とする。

#### 4. PDCAによるスパイラルアップの流れ(公共交通の確保維持改善の方向性)

武豊町地域公共交通網形成計画(第2期計画)の策定に当たり、地域公共交通総合連携計画(第1期計画)からのPDCAのポイントを下記にとりまとめた。

第1期計画では、公共交通サービス(バス)がない武豊町であったため、コミュニティバスの導入による「気軽に移動できる生活の足の確保」を目指した。そのため、評価も適切なサービス提供ができていないがチェックポイントとなっていた。

第2期計画では、サービス提供について一定の理解が得られるも、住民の利用割合は乏しく、事業見直しが必要とされた。そのためルート再編等を行い、評価は事業性評価と住民の利用割合、さらなるサービス拡大意向の側面から行う。

図7-2 武豊町の公共交通のPDCAの流れ(公共交通の確保維持改善の方向性)

